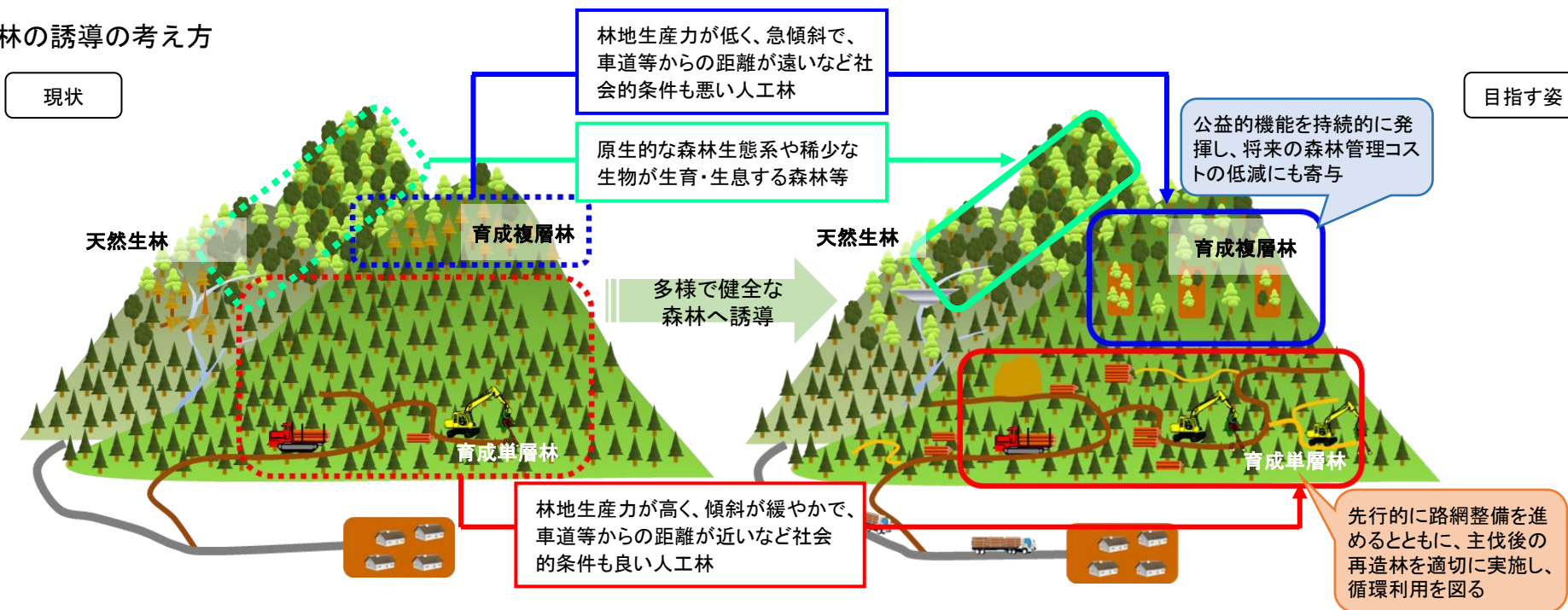


多様な森林づくりへの誘導

- 充実した人工林資源を最大限活用するとともに、効率的かつ効果的に森林を整備・保全し、公益的機能を持続的に発揮していくため、地域の状況を踏まえ、①傾斜が緩く集落から近い森林など林業経営に適した森林では、多様な伐期と植栽での確実な更新を図ることによる資源の循環利用、②奥地水源など条件不利地等では、針広混交林化、広葉樹林化を推進していく必要があります。
- このような中で、森林・林業基本計画において、国有林は育成複層林化等の取組を先導的に進めることとしており、国有林野の管理経営に関する基本計画においても、国有林では、地球温暖化対策や生物多様性保全等の観点から、引き続き、多様な森林づくりを推進することとしています。

■ 森林の誘導の考え方



○ 育成単層林を維持する森林

- 多様な伐期と植栽での確実な更新を図り、資源を循環利用していく森林として位置づけ。
- 公益的機能の発揮を同時に図る森林では、皆伐面積の縮小・分散や、伐期の長期化、植栽による確実な更新で、伐採に伴う裸地化の影響を軽減。

○ 育成複層林に誘導する森林

- 自然条件等に応じて択伐や帯状又は群状の伐採と広葉樹の導入等により複層林化を図り、公益的機能の発揮を図る森林として位置づけ。
- 天然生林のうち里山など継続的な利用や管理が必要な森林では、更新補助作業等により、育成複層林に誘導。

○ 天然生林を維持する森林

- 主に天然力により健全性が確保される森林として位置づけ。
- 自然の推移に委ねることを基本として、必要に応じて植生の復元を図る。

多様な森林づくり「見える化」プロジェクト

- ◆多様な森林づくりでは、育成単層林、育成複層林、天然生林を、地域毎の自然条件や社会的条件を踏まえ適切に配置することが重要です。
- ◆多様な森林づくりを進めるためには、森林計画の策定にあたり、自然条件・社会的条件を踏まえた将来の目標林型及び、それに向けた適切な施業方法について検討を行うことが必要です。特に、これまで必ずしも実績の多くない育成複層林施業や、天然力を活用して確実に次世代の森林を成立させる森林づくりは、施業に伴うコストに加え、技術的な検証を継続して積み重ねる必要があります。
- ◆「見える化」プロジェクトとは、各森林管理局の管内に1,000ha程度の「見える化」区域を設定し、多様な森林づくりを進めるための課題や改善策等を検討、実践する取組です。

局	計画区 (所在市町村)	面積 樹種	概要
北海道	胆振東部 (北海道 苫小牧市)	1,013ha トマツ25%、アカエゾマツ21%、 カラマツ10%、広葉樹29%	植栽した針葉樹に加え、天然更新した広葉樹も活用することにより、多様な樹種、林齢で構成された健全で風害にも強い森林づくり
東北	雄物川 (秋田県秋田市)	1,413ha スギ38%、広葉樹62%	自然条件や社会的条件を踏まえ、人工林の維持や広葉樹二次林の一部利用等、きめ細やかな施業方法の見直しによる多様な森林づくり
関東	奥久慈 (福島県棚倉町)	1,326ha スギ72%、ヒノキ21%、広葉樹7%	育成単層林から育成複層林への誘導を行う森林づくり
中部	飛騨川 (岐阜県下呂市)	1,085ha ヒノキ52%、カラマツ17%、 その他針11%、広葉樹20%	急傾斜地の森林を、皆伐を予定しない複層林へ転換するなどの災害に強い森林づくり
近畿中国	高梁川上流 (広島県 神石高原町)	349ha ヒノキ55%、アカマツ26%、 スギ11%、広葉樹8%	地域の水源林としての機能向上を目指した面的複層林、針広混交林化などによる多様な森林づくり
四国	四万十川 (高知県三原村)	745ha ヒノキ71%、スギ8%、広葉樹17%	三原村との協定(三原米の里)に基づき多様な森林づくりを行う森林、水源涵養機能重視の森林、多面的機能を発揮する森林に区分した、特色のある森林づくり
九州	大分中部 (大分県 豊後大野市)	1,020ha スギ67%、アカマツ8%、 ヒノキ7%、広葉樹18%	近接する森林生態系保護地域との親和性を踏まえた多様な森林づくり